

高山小通級指導教室開設 2 年間の歩み
～地域に求められる通級指導教室を目指して～

肝付町立高山小学校 教諭 田代 里子

目 次

1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 実践の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

 (1) 実践のねらい

 (2) 実践のポイント

 (3) 実践の計画（これまでの歩み）

3 実践の詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

 (1) 通級指導教室開設に向けての準備

 (2) 指導内容や指導の実際に関すること（5月下旬～）

 (3) 通級を知ってもらうために（地域への啓発）

4 実践のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

 実践の成果と課題

5 おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

〔引用・参考文献〕

- ・『読み書き等のつまずきに対する「見る力」を高めるトレーニングの活用』
佐賀県教育センター 平成 22 年
- ・『「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント活用&支援マニュアル』
東京都教育庁指導部特別支援教育指導課編集・発行 平成 30 年

1 はじめに

私は高山小学校に赴任し、今年で3年目を迎える。赴任して1年目は、高山小学校「むくの木1組（情緒学級）」を担当し、児童の発達特性に応じた指導に難しさを感じながらも日々試行錯誤してきた。学校にも慣れ、次はどの学級を担当するのかと思っていた令和4年4月、校長から「通級指導教室の開設に携わってほしい」ということで通級担当になった。

通級指導の経験は、言語・難聴指導で7年あったものの、LD・ADHD通級担当は初めてで、しかも開設の経験は全くないのでとても不安だった。教室もない、教材もない、児童用椅子も机もない状態から、一体どうすればよいのか……。しかし、通級が妥当であると判断されている児童が4人おり、その児童の困り感に応じた支援の役に立てるのならばと思い、令和4年5月の通級開設に向けて4月に準備を始めた。

本稿では、令和4年5月に通級を開設するまでの準備内容と、開設してから本日までどのようにして通級指導の流れを作り上げてきたのかを中心に記していきたい。

2 実践の概要

(1) 実践のねらい

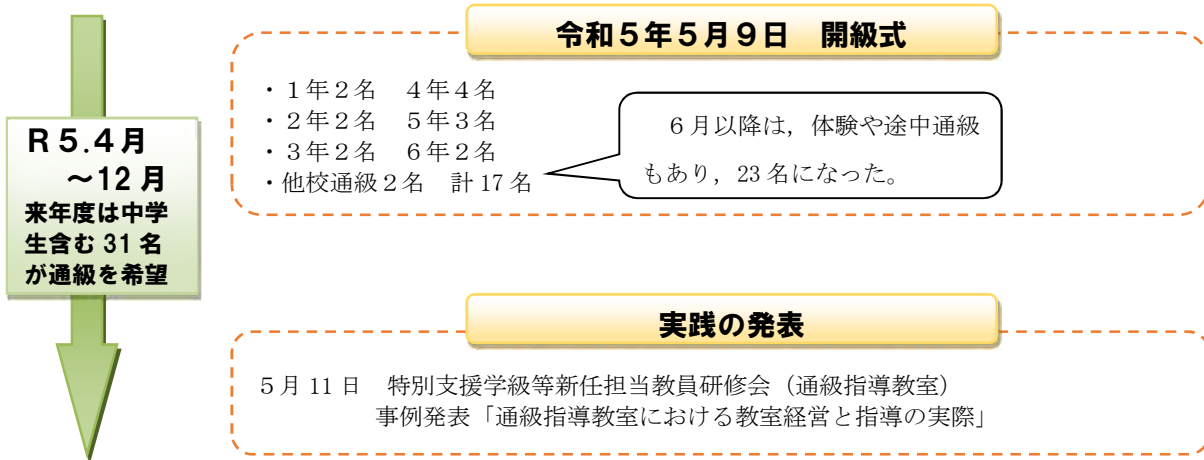
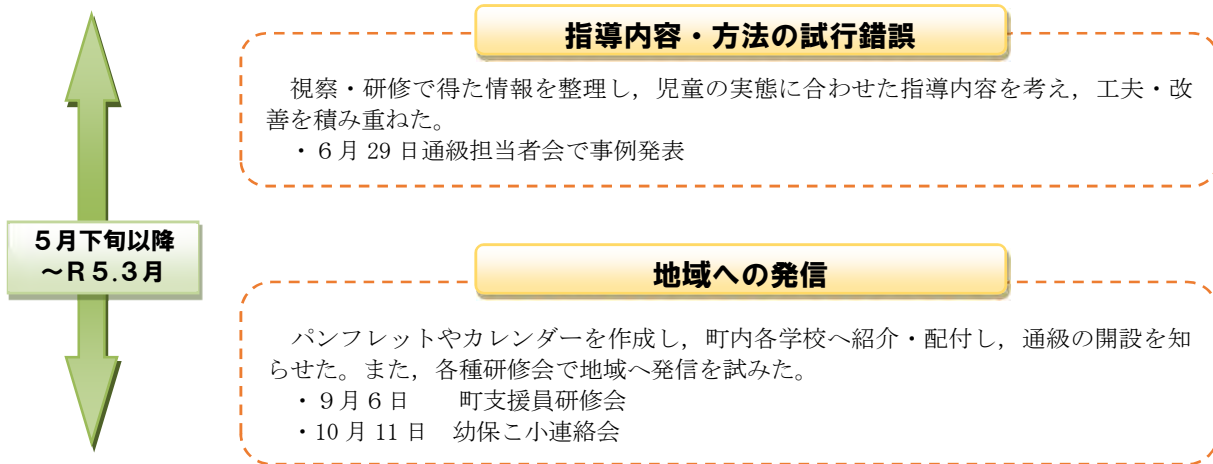
本実践では、通級開設の準備や2年間の啓発・授業内容の試行錯誤を通して、高山小学校通級指導教室が、学習や人との関わりに困り感をもつ児童に幅広く利用してもらえる場となることをねらいとする。

(2) 実践のポイント

- ア 開設に向けての準備
- イ 指導内容や、指導の実際に関すること
- ウ 通級を知ってもらうために（地域への啓発）

(3) 実践の計画（これまでの歩み）





3 実践の詳細

(1) 通級指導教室開設に向けての準備

ア 教室設営 令和4年3月末～4月下旬

元初任研指導室を使用し、通級指導教室を作ることになった。会議用のソファや机しかない状況のため、管理職や事務の先生と知恵を絞り、閉校になった川上小学校から不要品をリサイクルすることにした。教師用机、児童用ロッカー、保健室で使っていたテーブル等をいただき、軽トラックで校長・事務の先生・主事の方と協力して運んだ。



イ 備品リストの作成

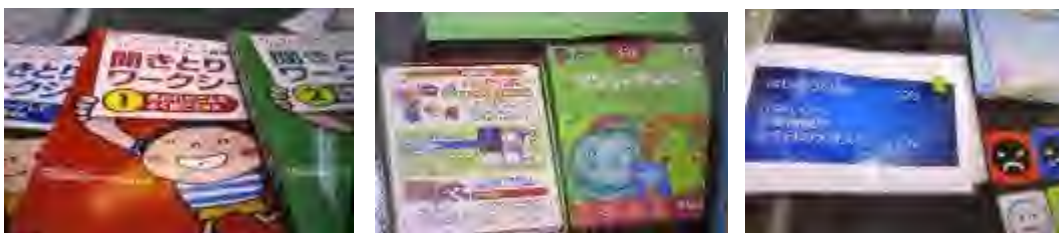
校長先生が、肝付町に話をしてくださる際の資料として、備品リストを何度も作成して優先順位を付けたものを提出した。

高山小学校通級指導級教室に必要な設備・備品について

優先順位	品名	購入数	単価	金額	ページ、品番
1位	シーサーコーンコア核埋埋	1台	143,000	143,000	P23 3 8-344-165-
2位	スリリングスクリーン	1台	16,500	16,500	P176 8-343-0420
3位	個別学習カード	1台	10,285	10,285	P265 5-341-5079A
4位	個別用合読書カードセット	1台	11,000	11,000	P262 8-340-4192
5位	ワークシートで進める特別支援のSST	1台	13,200	13,200	P76 8-340-0252
6位	個別ペースと読み取りカードセット	1台	17,600	17,600	P162 8-340-414 3-
7位	読書力を育てる読書カードセット	1台	19,800	19,800	P253 5-340-0251
8位	ホワイトボード付き取読システム ディスプレイセット	2台	103,740	205,480	P386 8-340-6004
9位	デュアル画面の触覚モニター	1台	12,870	12,870	P170 5-342-6291
10位	デュアル画面の触覚モニター	1台	11,550	11,550	P245 8-342-4903

ウ 視察・研修 5月初旬～中旬

山下小、国分西小、鹿屋小を視察した。山下小では、書籍の紹介や指導の流れに関する説明を受けた後、授業参観をさせていただいた。国分西小では、開級式の参考資料や授業に役立つプリント集をいただいた。また、通級手続きの方法について詳しく知ることができた。鹿屋小からは、「鹿屋市の通級担当者会が発足したので入りませんか」とのお誘いをいただき、2か月に1度の担当者会で事例研修を積むことになった。早速6月第1回目の事例研修に手を挙げ、授業の進め方を鹿屋市教育委員会の先生や、通級担当の先生方に見ていただくことになった。



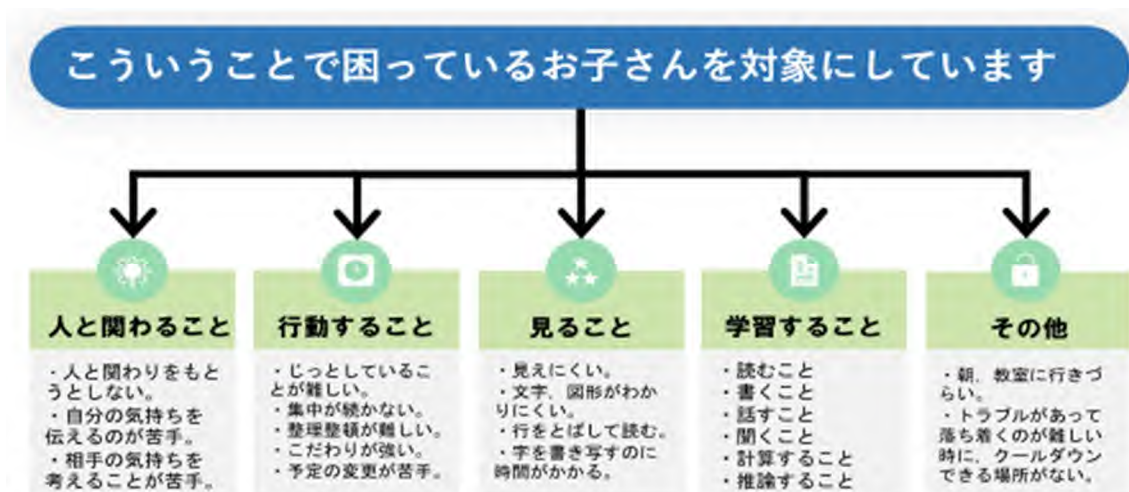
年間6回の通級担当者会 事例研修

回	日時	場所	内容
第1回	5月25日(水)	鹿屋小学校	○ アセスメント資料等の確認 ○ 年間計画の確認
第2回	6月29日(水)	高山小学校	○ 事例検討
第3回	8月4日(木)	鹿屋小学校	○ 教材教具に関する情報交換 ○ 実践に関する情報交換
第4回	9月7日(水)	西原台小学校	
第5回	11月22日(火)	鹿屋中学校	
第6回	1月24日(火)	鹿屋小学校	

(2) 指導内容や指導の実際に関すること（5月下旬～）

ア 通級指導について

① 通級指導の対象



高山小通級パンフレットより抜粋

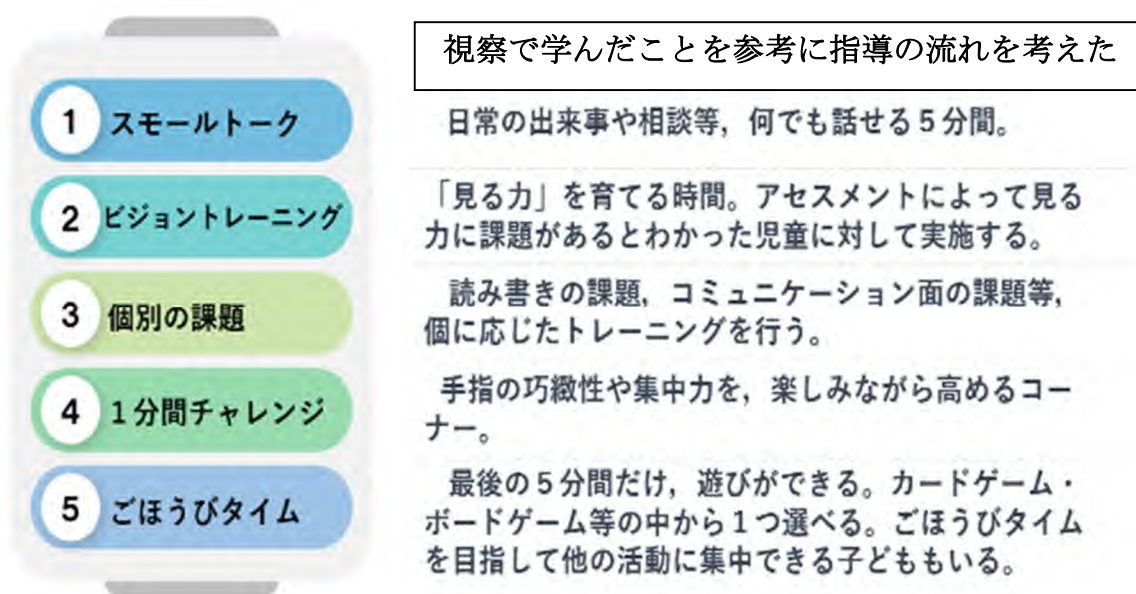
② 通級指導で大切にしていること

- 自信をもって活動できるように必要な力を付ける。
- できないことも受け止める。
- 自分にあったやり方を考える。

高山小通級指導教室では、小学校生活をいきいきと楽しく過ごすために、自分の得意なことや好きなことなども含めて自己理解を深めていけるよう指導している。

そのためには、児童一人一人と信頼関係を育み、見守りや励ましが必要である。様子が気になる児童には、毎日休み時間等を利用して声掛けを行っている。

イ 具体的な指導内容・指導の実際について



最初に、スモールトーク（雑談・世間話）で話をしたい児童には自由に話をさせて、お話が苦手な児童には質問をして話題を引き出す。そして、ビジョントレーニングで目の運動をして、それぞれに合った課題を行い、手先の運動で巧緻性と集中力を高めて、後に頑張ったごほうびとして、5分間だけ遊ぶことができるという流れにした。

【指導例1】ビジョントレーニング

Aさんのアセスメント結果に基づいたトレーニング

1 跳躍性眼球運動
2 追従性眼球運動
3 視知覚認知

トレーニング例

順番文字・数字探し



ころがしキャッチ



点つなぎ



上の図は、Aさんのビジョントレーニングの指導例である。

「見る力」チェックシート		氏名()	
活動	質問(◎-よくあてはまる ○-あてはまる)	◎	○
読む	○ 行を飛ばしたり、同じところを何度も読んだりする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ どこを読んでいるのかわからなくなる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 決められたところを読むときに、非常に時間がかかる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 大きく頭や体を動かす様子がみられる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 本やノートに顔を非常に近づける(または、遠ざける)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
書く	○ マスからはみ出したり、読めないくらい形が整わない文字を書いたりすることがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 読文字を書く。(小学校2年生以上の場合)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ ひらがなや漢字の書き間違いが多い。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 漢字をなかなか覚えられない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 書くことが苦手である。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 黒板の文字を写すのに、時間がかかる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
道具を使う	○ 定規を使って、決められた線をうまく切ることができない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ 定規等を使って作図をすることがうまくできない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	○ リコーダーをうまく吹くことができない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ステップ2

STEP2 「見る力」チェック			
チェック日	年月日		
	入力	視知覚	出力
◎			
○			

ステップ2へ ←「入力」「視知覚」にチェックが入ったら照してください。

トレーニングメニュー作成へ ←「出力」だけにチェックが入ったら照してください。

トレーニング終了 ←チェックで何回も練習がなければ照してください。

※あてはまるところにチェックを入れてください。

『読み書き等のつまづきに対する「見る力」を高めるトレーニングの活用』という、佐賀県教育センターが公開しているチェックリストを使って、Aさんの「見る力」についてアセスメントを行い、困り感に応じたトレーニングメニューを作成した。Aさんは、日頃から板書を写すのが苦手で、ノートを書き写すことに終始する授業時間を過ごしている。今回のアセスメントから、Aさんの困り感が眼球運動にも起因しているのではないかとということが分かり、トレーニングを毎回行っている。

【指導例2】個別の課題（読み書きに課題がある児童のアセスメント例）

アセスメントテストを行い、具体的な読み書きの課題を探る。アセスメントツールとして、東京都教育庁指導部特別支援教育指導課が編集・発行されている『「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント活用&支援マニュアル』を使用した。


ひらがな単語のりゅうちょうな読み (4文字)			※正答数を算出してください。			← はじめ
⑥ かめぼこ かむぼこ かまぼこ	⑤ えんぼつ えんびつ えいびつ	④ ひまわり ひまをり ひまわり	③ にんじん にんじん にんじん	② たんぼほ たぬぼほ たんぼほ	① たまねぎ たまねぎ たまねぎ	
⑫ にわとり にはとり にわより	⑪ はんかち はんたち はんかち	⑩ ねくたい ねすたい ねくかい	⑨ あさがお あさごお あたがお	⑧ しいたけ しひたけ しいたけ	⑦ やきもち やしもち やきもち	
⑬ そろばん そろばん そろばん	⑭ なわとび なわとび なわとび	⑮ どんぐり どんごり どんぐり	⑯ くつした くつした くつした	⑰ たいよう たいよう たいよう	⑱ だいきん だいきん だいきん	

おわったら、ページをめくりうらのもんだいへすすみましょう。

この他、ひらがな単語正誤判断課題・特殊音節単語・音韻抽出分解・順唱・昇順・読解・漢字のテストも行い、テスト結果を入力すると、課題に応じた練習プリントを印刷したり、自分で作成したりすることができる。

【指導例3】個別の課題（ソーシャルスキルトレーニング）

動画やイラストを見て、よりよい行動について考える。指導の流れは以下のとおりである。挨拶やルール等を学ぶのは動画やイラストでもよいが、自分の行動を振り返って修正していくのは、日常生活の困りごとと一緒に話し合いながら「どうすれば結果がよくなったのか」を考えさせるようにしている。



- ① 教示（言葉や絵で直接教える）
- ② モデリング（見て学ぶ）
- ③ リハーサル（やってみる）
- ④ フィードバック（振り返る）

SST
ソーシャルスキル
トレーニング

(3) 通級を知ってもらうために（地域への啓発）

ア カレンダー制作

通級児童が、授業の終わり5分間を使ってそれぞれの「得意」を生かしたカレンダーを作った。字が得意、果物の絵なら描ける、教科書のごんぎつねを上手に描ける、絵は苦手だから数字を担当しますという児童など、得意を結集したカレンダー作りに取り組むことができた。児童が描いた絵や数字は、私がパソコンで合成して仕上げをした。



このカレンダーを通級児童の保護者の協力をいただいて包装し、肝付町内の幼稚園や保育園、こども園、各小・中学校、役場、教育委員会、鹿屋市内の通級指導教室、鹿屋市教育委員会に配付した。カレンダーには、通級指導教室の案内文も同封し、高山小学校で通級ができることを少しでも知っていただけるよう工夫している。また、通級児童にもカレンダーを配り、自分たちの力でこんなに素敵な作品ができたことをみんなで喜んだ。



イ 通級パンフレット配付

通級指導の意義を正しく理解していただき、また、肝付町にも通級指導教室が開設されたことを広く知っていただけるようパンフレットを作成した。肝付町から鹿屋市内にある通級指導教室に通うためには、保護者は片道20分から25分かけて送迎しなくてはならない。児童や保護者にとって、より通級が身近に感じられるとうれしい。通級担当者会に出席された鹿屋市内の先生からも、「どちらかといえば高山小の方が位置的に近いので、高山小に通級させることはできないか」という相談もいただいたので、通級エリアについても、今後の検討事項として話題にしていきたい。

このパンフレットは、町教育委員会の御協力により、校長会や幼保小中連携の場でも配っていただいた。また、教育相談に来られた保護者にもお渡ししたり、本校職員にも配付したりして、学校内外に幅広く行き渡るよう努めた。



【通級パンフレットの内容】
 通級の対象となる主な困り感や、通級方法等について記した。



ウ 各種研修会での啓発

令和4年 9月 6日	町支援員研修会「高山小通級指導教室の概要について」
令和4年 10月 11日	幼保こ小連絡会「高山小通級指導教室について」
令和5年 5月 11日	特別支援学級等新任担当教員研修会（通級指導教室） 事例発表「通級指導教室における教室経営と指導の実際」

9月6日「町支援員研修会」では、まず「通級とは何か」という説明を行い、日頃支援をしている中で学習面や行動面で困り感を抱えている児童がいた場合、肝付町には学習の場として高山小学校の通級という選択肢があるということをお知らせした。

10月11日「幼保こ小連絡会」では、各園長・校長先生方に対して地域における通級指導教室の役割を知っていただくために、通級での取組や授業の内容について詳しく説明を行った。

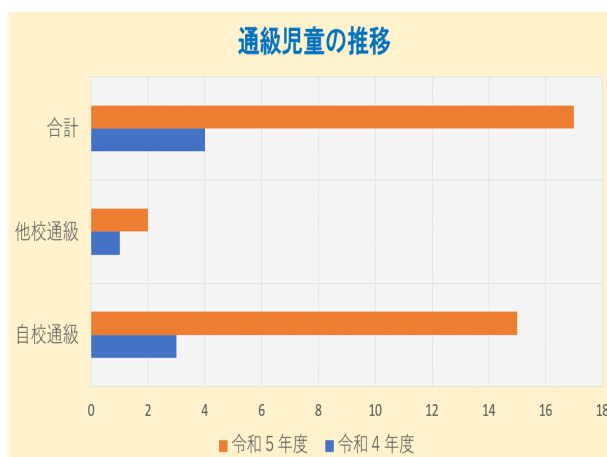
また、通級児童が作成したカレンダーを配付して園や学校の先生方にも広く知っていただけるよう工夫した。支援学級だけでなく通級も選択肢に入れながら多面的に児童を見ていただけたらよいと思う。

5月11日県総合教育センターで行われた「特別支援学級等新任担当教員研修会」では、初めて通級担当になられた先生方に対して、高山小学校通級が開設するまでの道のりや、使用している教材・教具、指導法について事例発表をする機会をいただいた。私自身も、先生方と交流しながら新しい発見や学びがあった。現在もそこで出会った先生方とteamsでつながり、校種を超えて授業に使えるプリント集や自立活動の資料等をやりとりしている。

ずっと特別支援教育の分野で働いてきた人や、赴任先の学校に通級指導教室があった先生方にとっては、通級は身近なことなのかもしれないが、そうではない人にとってはどんなことを教える教室なのか不明な点も多いと思う。通級児童を通して、どんな困り感があるのかを知り、その困り感を軽減・改善するためにどんなトレーニングをしているのかをたくさんの先生方に知ってほしい。

4 実践のまとめ 実践の成果と課題

年度	自校通級	他校通級	合計
令和4年度	3人	1人	4人
令和5年度	15人	2人	17人
※ その他、令和5年度は体験2人、 保留1人、総合計は20人			



(※人数は、昨年度3月時点での報告人数)

実践の成果としては、1年で全体の通級児童が体験含め4倍強に増えたことである。最初に兄が通級を始め、そこから弟も通級につながったケースや、保護者の口コミや町報で情報を得て通級に興味をもってくださったケースもあった。また、通級指導としての機能ばかりでなく、登校しぶりのある児童にとっては、朝少し通級に立ち寄って話をしたり、休んでから教室に行ったりという場所にもなっている。昨年度は3人、今年度は4人が始業前に通級教室で過ごしてから次第に、元の生活リズムを取り戻すことができた。

なお、令和6年度の見通しとしては、小学生の自校通級が28人、他校通級が1人の計29人となっている。昨年度と比べて更に増加傾向にあり、通級のニーズが高まっていることが分かる。

課題としては、他校への啓発が挙げられる。通級に対する理解や必要性をこれからも伝え続けていきたい。就学前の段階から通級に関する説明ができる場があれば、保護者の認識も変わっていくのではないかと思う。

5 おわりに

令和4年度に通級を開設してからこれまでの実践を通して、地域の児童に少しでも還元できていたら幸いである。遊びのように取り組めるトレーニングや、集中してこなしていく場面を設定しながら、児童が楽しく学べる場を提供していければと思っている。最初は、「通級は遊べるから楽しい」と言っていた子が、最近体験学習に来た友達に「通級は遊んでいるように見えるかもしれないけど、ちゃんとめあてがあって遊びみたいにぼくたちの苦手なところを教えてくれるんだよ」と説明している場面を見てうれしかった。児童一人一人が通級を正しく理解し、自分の課題に向かって学ぶことができれば、自然に周りにも通級がどんなところなのか分かってもらえると思う。

今の通級があるのは、開設にご尽力くださりあらゆる面で協力していただいた肝付町教育委員会の先生方のおかげでもある。また、施設・設備面では役場の方も見に来てくださり、よりよい教室づくりに力を貸してくださった。私一人の力ではなく、肝付町の児童の教育に携わる人たちで作上げた通級指導教室を、これからも発展させていきたい。